

臨床検査専門科目	生体機能検査学					
		2単位	演習	平成30年度	前期	2年次
臨床検査学科	必修					
科目名	生体機能検査学各論IV (画像) Clinical Physiology (Imaging)					
担当教員	◎堀江修 野間恵之 日浦之和 山崎 良 北川孝道 太田奈津子 松下陽子 増田喜一 仲宗根出					
目的	生体機能検査のなかで技術革新が進んでいる画像検査について、測定原理・検査の実際・正常および異常画像の評価などについて正しく理解する。特に、臨床検査技師が実施できる、超音波検査、MRI検査、その他の画像検査などについても、検査方法、評価について学ぶ。					
目標	<p>生体機能検査学(総論)で習得した基礎知識を元に、各種画像診断検査の意義、限界等について詳細を説明できる。各画像診断検査ごとに正しい検査手技を理解する。得られた検査データについて、その信頼性を評価し、病態を把握する方法を学ぶ。実例を用い、検査データの読み方、追加実施すべき検査等を学ぶ。</p> <p>生体機能検査に関連する主な病態を理解し、各種生体機能検査がどのように用いられ、評価されているかについて説明できる。</p> <p>IV：画像診断検査</p> <p>① 各種画像診断検査の種類とその適応について説明できる。</p> <p>② 超音波検査法に関連する物理的特性およびアーチファクトについて説明できる。</p> <p>③ 放射線を用いた各種画像検査の種類と特長について理解できる。</p> <p>④ MRI検査の基礎と画像診断方法について理解できる。</p> <p>⑤ 超音波検査における各種所見(腹部・血管・表在・泌尿器・乳腺)について理解できる。</p> <p>⑥ 救急措置の適応、バイタルサインの見方、一次・二次救命法について理解できる。</p>					
他科目との関連	生体機能検査学総論，生体機能検査学各論(循環，神経，呼吸)					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	定期試験の成績				
	レポート					
	記録等					
	その他					
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	最新 臨床検査学講座 生理機能検査学 (医歯薬出版)					
参考資料	標準臨床検査学 生理検査学画像検査学 (医学書院)，臨床病態学1 (ヌーベルヒロカワ)					
備考 (受講上注意，事前学習等)	学外講師の都合により，適宜順番・日程を入れ替える。					